

バッハ盤を聴く(7)(HP 収載)
—最新アナログシステムでの試聴(7)—

1. 始めに

前報(6)に引き続き、バッハのアナログ盤を聴き直していきます。

2. バッハのアナログ盤の試聴方法

試聴システムは LINN LP-12 の再構成(35)および ThorensTD124 の再構成(1)で報告したとおりであり、今回から LINN LP-12 で聴いていきます。その後、さらにアンチスタティックの効果(1)とアンチスタティックの効果(2)で報告したようにレコードアンテナティックも加わり、今回は、スピーカーアキュライザーの出力側のマイナス端子に Crstal EpY-G をセットしています。

今回は、次のレーベルを聴いてみます。

LONDON SLA-1005

J.S.バッハ トッカータとフーガ ニ短調 BWV565
前奏曲とフーガ ト短調 BWV542
パッサカリアとフーガ ハ短調 BWV582
衆讃前奏曲 BWV645
目を覚ませと呼ぶ声が聞こえ
カール・リヒター (オルガン)

EMI GR-2018 (モノラル)

J.S.バッハ 無伴奏チェロ組曲第 5 番・第 6 番
パブロ・カザルス (チェロ)

3. バッハのアナログ盤の試聴結果

LONDON 盤は、ZANDEN のリストでは、DECCA、R、第 4 時定数 Mid となっています。

バッハのオルガン曲は、DECCA、R、第 4 時定数 Mid で違和感なく、ペダル領域の低音は量感もあり、高音の抜けもよく、1969 年発売となっていますので、それ以前の録音ですが、古さを感じさせません。

EMI 盤は、ZANDEN のリストでは、ステレオ盤は EMI、R、第 4 時定数 Mid となっていますが、上記はモノラル盤ですので一から調べていきます。

バッハの無伴奏チェロ組曲は、クレジットには 1938 年と 1939 年録音と記載されています。RIAA、N、第 4 時定数 High から聴き始めましたが、チェロの音像が過大

ですので、位相反転して R にしました。次に EMI カーブにしますと、音が滑らかになり、第 4 時定数を High から Mid にしますと胴鳴りなどの響きがでてきましたので、最終的に EMI、R、第 4 時定数 Mid としました。古い録音とは思えないほど、カザルスの力強いボウイングが前面にでできます。

4. まとめ

LINN LP-12 の再構成(35)とアンチスタティックの効果(1)の結果をトレースでき、レーベルのイコライザー特性が特定できました。

以上